

全労金2016春季生活闘争ニュース・第11号

協会と、休日労働割増率の改善に伴う 中央協定の改定について、団体交渉を開催しました！

◎休日労働割増率を50%に改善した上で、中央協定を締結しました！

全労金は、3月16日午前9時から、協会と団体交渉を開催しました。出席者は、協会には加藤専務、吉田常務、望月人事部長、筒井次長、伊吹専任役、全労金は末留委員長、櫻井・新井副委員長、深見書記長、奥井書記次長です。団体交渉では、全労金は全単組から、協会は全金庫からの委任を受け、休日労働割増率を50%に改善した上で、「時間外ならびに休日労働割増賃金に関する協定」を締結しました。

全労金は、2010春季生活闘争において、全単組統一要求として「休日労働割増率を50%に改善する」ことを掲げた上で、単金単組における交渉経過を踏まえ、2013年3月に協会に対して「申入書」を提出し、中央労使協議を進めてきました。その後も、全労金の各級会議における議論や、全労金組織全体で休日労働割増率の改善に向けた取り組みを進めた結果、2016年1月29日に開催しました第58回中央委員会で、「休日労働割増率の改善に伴う『時間外・休日労働割増賃金に関する協定』の改定」を確立し、今回、「休日労働割増率の中央協定化」を実現することができました。

以下に、団体交渉における中央執行委員長挨拶を示します。

全単組・全金庫の委任を受け、本日の団体交渉によって、「休日労働割増率の改定」と「1ヵ月単位の時間外労働時間の計算単位」について確認するにいたった。締結にいたるまでの協会の働きかけに対して、全労金を代表して御礼申し上げる。

まず、この間の経過について触れておく。2000年以降、各金庫では、ローンセンターの常設、休日の融資相談会の実施等の政策に対応するため、多様な勤務形態が増加したこと等を背景に、全労金は、2009春季生活闘争において休日労働割増率を50%に統一するよう協会に申し入れた。しかし、協会は「全国合併時に協議することを前提に、当面は現行通り」とした方針に加え、休日労働の運用に大きな違いがあったこと等から合意にいたらなかった。以降、2010年4月には、中央労使において「多様な働き方に関するガイドライン」と、「時間外労働の削減に向けた共通施策」を確認した。その後、「休日労働割増率」については、単金単組交渉での解決に向けて春季生活闘争で要求を掲げたが、少なくない金庫から「休日労働割増率は、中央労使間で協議することが望ましい」との考えが出された経過等も踏まえ、2013年3月、全労金は、「休日労働割増率に関する協議」を単金単組協議から中央労使協議に移行した。以降、中央労使によるワークルール委員会で協議を進めると

ともに、全労金は中央執行委員会や機関会議で議論を重ね、協会の企画会議や人事担当役員会議での状況を踏まえて対応してきた。

また、今回の「中央労使による解決」に向けて、単組は単金との協議を積み重ね、単金単組交渉から5年、2013年の協会に対する申し入れから数えても3年かけて、本日を迎えることができた。

労働金庫業態として、全国合併は「当面延期・継続協議」となったが、「全体最適」を基本ポリシーとしたアール・ワンシステムへの移行により、規程や要領、そして、システムが全国で統一された。全国の労働金庫で働く私たちは、労金を取り巻く会員環境、そして、金融機関を取り巻く今の厳しい情勢をふまえれば、単独金庫としての経営を最優先とするのではなく、労金業態として統一した労金運動の取り組みを47都道府県で維持・拡大する必要があると認識している。「休日労働割増率の改定」の中央協定化にむけた、中央労使に対する委任に向けて、単金・単組では、「働き方の見直し」を含めた協議が進められている。多様化している会員・利用者ニーズへの対応とあわせて、「ワークライフバランスの実現に向けた働き方」に基づき、全労金と協会は、各金庫における時間外労働や休暇取得、休日労働の労働実態など分析を行った上で、労金業態に共通する課題への対応、総労働時間の短縮とワークライフバランスのとれた働き方、そして、働き方を統一するといった観点で、ワークルール委員会において協議を進める必要がある。

全労金と単組は、「労金を守り発展させる取り組み」が運動の柱の一つである。労働者自主福祉運動を展開する労働金庫として、休日の働き方だけではなく、常日頃から役職員が一体となった民主的な職場運営を図る態勢を、労使が力を合わせて構築していくことと、春闘で要求した最低賃金、中央協定の見直し、統一退職金など、労使の役割を果たしていくことを申し上げ、挨拶とする。

※ 協定の内容等については、4月上旬に「ニュースぜんろうきん」を発行し、組合員のみなさんに報告します。

※ 次号は3月17日(木)に配信予定です。

以 上